

生成 AI 活用ステップロードマップ

2025 年 12 月

EmzStyle LLC 前田稔

はじめに：ユースケースよりも「体験」が先

生成 AI の社内活用を促進しようとしたとき、多くの組織が最初に考えるのが「ユースケースを定義しよう」というアプローチです。

もちろん、それ自体が間違いではありません。

しかし、現場での浸透という観点では、このアプローチは意外とうまくいかないことがあります。

なぜなら、人は「知らないもの」に対しては、たとえ明確なユースケースが提示されたとしても、それを“自分ごと”として捉えることができないからです。

「AI って何ができるの？」

「どう使っていいか分からぬ...」

という反応が自然なのです。

これは、かつてスマートフォンが登場したときの状況とよく似ています。

スマホにはカメラ、地図、音楽、アプリ...と多くの機能が詰め込まれていますが、初めて使う人にとっては「複雑すぎて自分には無理」と感じるものです。

しかし、実際には「電話をかける」「写真を撮る」「LINE でやり取りする」といった簡単な体験を通じて、自然と使える機能が広がっていきました。

生成 AI も同じです。

「まずは触ってみる」「使いながら学ぶ」という体験型のアプローチが、もっとも自然で効果的な導入方法です。

そこで本資料では、

AI に不慣れな人でも段階的に使いこなせるよう、ステップ形式での活用ガイドを提示しています。

「いきなり高度なユースケースを考える」のではなく、

「検索してみる」

「メール文を直してもらう」

などの身近な行動から始め、徐々に業務活用・チーム連携へとステップアップしていく構成です。

このステップを通じて、

自然に AI を“自分の道具”として使いこなせる人材を育てていくことが、本質的な活用促進につながると考えています。

生成 AI 活用ステップロードマップ（初級～実践）

Step 1：検索の代替として使ってみよう（対話型検索）

- ・通常の Web 検索の代わりに、生成 AI に質問してみる。
 - ・検索ワードが曖昧でも、「こういうことを探している」と説明して質問。
 - ・満足いかない回答が来たら、その理由を伝えて再質問。
- ⇒ 検索ワードが曖昧でも OK。対話で“答えに近づく”体験。

Step 2：文書やメールのチェック・改善アドバイス（プロンプト練習）

- ・書いたメールや資料を生成 AI に見てもらい、誤字脱字や内容のフィードバックを依頼。
 - ・相手が誰か、場面がどういうものかも伝えてアドバイスを受ける。
- ⇒ 文脈を伝えることで精度が上がる。プロンプト設計の習得。

Step 3：壁打ち相手として使ってみよう（思考の整理）

- ・自分の考えを AI に説明し、意見を求める。
 - ・賛成・反対の立場でフィードバックを依頼。
 - ・営業資料やプレゼン原稿の想定 QA 作成なども。
- ⇒ AI=知的パートナー。抽象的課題にも使える汎用性を実感。

Step 4：業務の効率化に使ってみよう（ちょっとした作業代行）

- ・表や文書フォーマットの作成を依頼。
 - ・議事録の要約、アンケートの集計など。
- ⇒ ルーチン業務の一部を任せて、時短と品質向上。

Step 5：チームで活用してみよう（共創ツールとしての活用）

- ・会議中に AI を同席させる。
 - ・チームで AI に質問しながらアイデアを練る。
- ⇒ 個人→チーム活用へ。自然な業務組み込みを体験。

ステップ別 活用一覧表

ステップ	活用シーン	目的・習得内容
Step1	検索の代替	対話型で情報を探す、新しい検索体験
Step2	メール・文書のチェック	プロンプト設計の基礎を学ぶ
Step3	壁打ち・ブレスト	自分の思考整理、多角的検討
Step4	日常業務の代行・補助	作業の時短・効率化
Step5	チームで共創	業務への組込み、コラボレーションの強化

「遊び」から始める AI 活用のすすめ

生成AIの導入を「仕事」として捉えると、多くの人は無意識に『やらなければならない』というプレッシャーを感じてしまいます。

その結果、ハードルが上がり、手が止まってしまうケースも少なくありません。

しかし、人間の脳は『楽しい』『気持ちいい』と感じることで初めて本気で動き出すようにできています。

これは、脳内で分泌されるドーパミンや報酬系の活性化によって行動と学習が強化されるためです。

つまり、最初は“遊び”でもまったく問題ないです。

むしろ遊びから始めたほうが、自然と使い方が身につき、結果的に仕事での応用にもつながっていきます。

生成 AI 活用の『学びの階段』

フェーズ	行動	脳の状態	学習・成果
興味・好奇心	面白そうだから触ってみる	快（ドーパミン）	抵抗感が消える
試行・対話	いろいろ聞いてみる／試してみる	快の継続・探索強化	対話スキル・応用力が育つ
気づき・発見	「これ仕事に使えるかも」	報酬系が活性化	ユースケースが自然に育つ
業務応用・共有	「あのときのが使える！」	成果実感による内発動機	業務効率化／チーム活用へ発展

人は『楽しいから使う』。

楽しいから学ぶ。そして、学んだから役に立つ。

生成 AI も、まずは“使ってみたい！”と思わせる環境づくりが最も大切です。

遊びはムダではなく、学びと変化の入口です。この考え方を組織全体で共有できれば、生成 AI の活用は自然と広がっていくでしょう。

本ホワイトペーパーについて

本ホワイトペーパーは、

前田 稔（エムズスタイル LLC）による独自の調査・分析および構造知性フレームワークに基づき作成されています。

本資料は、特定の解決策や結論を提示するものではなく、判断に必要な構造や視点を整理することを目的としています。

著作権・利用条件

本資料に含まれる文章・図表・分析内容・構造フレームワークは、著作権法および関連法令により保護されています。

本資料の利用条件は、以下に定める

「ホワイトペーパー利用規約」に従うものとします。

 <https://emz-style.com/whitepaper-terms>

利用区分の概要

- 無料版（要約・抜粋）
社内共有・紹介目的での利用は可能です（改変・商用利用不可）
- 有料版（個人）
個人学習目的に限り利用可能です（社内共有不可）
- 法人向けライセンス
社内での配布・研修・教育用途での利用が可能です

※詳細は上記利用規約をご確認ください。

最後に

本資料をお読みになり、

- 判断に迷う点がある
- 自社の状況に当てはめると違和感がある
- このまま進めてよいのか確信が持てない

と感じられた場合は、

それ自体が重要なサインです。

ご相談・ご質問は、以下よりお気軽にお寄せください。

 <https://emz-style.com/contact>

(※法人向けのご相談・講演・研修のご依頼もこちらから承っています)